

# 1 地域の自主防災活動

## ● 地域住民による初期救助活動の重要性

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊等により多くの犠牲者が出ましたが、その一方で、生き埋め状態の中からたくさんの人たちが救出されています。

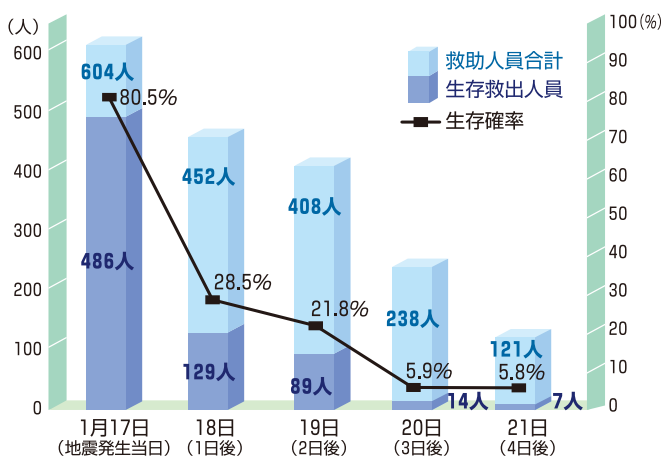
生き埋めになった人を早急に救出することができれば、その分、その人の生存率は高まります。表1は、神戸市消防局管内における日別救助人員と生存確率を示したものです。これによると、地震発生当日に救助された方は、その8割が生命をとりとめましたが、1日経過すると生存確率は3割以下に落ち込んでしまいます。

阪神・淡路大震災では、被害が甚大かつ広範囲にわたったことによる救助件数の増大に加え、建物の倒壊物が道路の障害物となり、交通渋滞を引き起こしたため、消防救助隊の到着が遅れました。このため、初期段階における救助活動は、地域住民の皆さんの手で行われました。その結果、多くの人々の生命を救うことができましたのです。表2は、それを示す一例です。

災害という混乱期においては、何よりも自らの防災力、地域の防災力が重要になります。何よりも大切なあなたの生命、あなたの大切な人の生命を守るために、自主防災組織などの地域防災活動に参加しましょう。

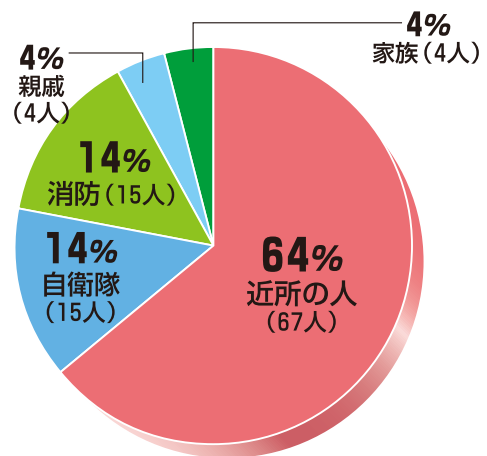


表1 阪神・淡路大震災における日別救助人員状況



「阪神・淡路大震災における消防活動の記録」(神戸市消防局 編集／(財)神戸市防災安全公社・東京法令出版(株) 発行)より

表2 人命救助をした人の内訳(東灘区における調査結果)



出典:「1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5)神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査」宮野道雄(大阪市大)他  
「1996年度大会(近畿)学術講演梗概集」((社)日本建築学会)より

# 自主防災組織の構成と活動内容

自主防災組織は、迅速かつ効果的な活動ができるように部（班）の構成を行います。以下の例を参考に、あなたの地域でも自主防災活動を積極的に進めましょう。

